

平成 26 年 3 月 11 日

女子体操競技情報 20 号

(公財) 日本体操協会
リオデジャネイロ強化委員会女子体操競技強化本部
女子体操競技委員会
審判委員会女子体操競技審判本部

日本体操協会では、リオデジャネイロオリンピック強化委員会女子体操競技強化本部と審判委員会女子体操競技審判本部による 2014 年強化指針と採点指針、世界体操競技選手権大会の報告、採点規則集修正の訂正、及び全国代表審判員研修会において出された質問の答えを通達し、この通達をもって適用といたします。

【目次】

1	2014 年度強化指針	1
2	第 44 回世界体操競技選手権アントワープ大会報告	4
3	2014 年度採点指針	8
4	芸術性について	9
5	体操競技女子 2013 年版採点規則修正の訂正について	12
6	平成 25 年度女子体操競技全国代表審判員研修会の Q & A について	14
7	おわりに	16

1. 2014 年度強化指針

本年の強化指針として以下に述べる内容は、関係者がこれまで築き上げてきた日本女子体操の世界に認められた質の高い体操を大切に、引き続き、さらなる強化を試みるものである。2016 年のリオデジャネイロ五輪のみならず、2020 年、それ以降と、中長期的に日本女子体操界にとって素晴らしい成果が得られるよう、引き続き皆様のご協力をお願いしたい。

昨年の強化指針の下、まず強化の第一段階として、一年間は身体トレーニング、基礎技術トレーニング、パワートレーニング、芸術性のトレーニングに重点を置いて取り組み、これにより次年は、高難度、かつ効率的な技の選択、演技構成等、より世界をターゲットとした戦略的な強化のオプションを増やすことが重要と考えた。

そして、昨年 4 月から行ってきた毎月（約 1 週間）の強化合宿において、主に下記の内容で強化を行ってきた。

- ・ 毎月の強化合宿による徹底した基礎体力、基礎技術の強化。
 - ・ 強化合宿時における定期的な技術講習会やコーチング講習会により、技術やトレーニングに関する理論的な知識のレベルアップ、共通認識を図り、所属で継続してもらう。
 - ・ 種目により突出した力を持った選手は、積極的に招待し強化していく。
- これらの成果として、各種目、主に下記のような向上が見られた。

跳馬

- ・多くの強化選手において助走スピード、及び踏み切り力（蹴りの強さ）の向上が見られた。
- ・それに伴い、これまでよりも上昇力と余裕のあるユルチェンコ 2/1 ひねりの練習を行える選手が増えてきた。
- ・同様に、前方系の踏み切り力（蹴りの強さ）も向上し、上昇力と余裕のある前方伸身前宙 1 1/2 ひねりの練習を行える選手も出てきた。

これらの選手に関しては、特に技自体の練習を行ってきたわけではないが、カギとなる基礎体力、基礎技術の徹底トレーニングにより必然的に実行可能となってきた。今後の継続的なトレーニングにより、現在以上の跳躍技も可能になってくると思われる。

（このアプローチは、単なる実施得点の向上にとどまらず、世界的に女子選手に多い着地時の膝・足首の大怪我防止にもつながる。）

段違い平行棒

- ・上半身を中心とした身体の強化により、スイング自体に強さが伴い、手放し技や、終末技の上昇力の向上が見られる選手が増えてきた。
- ・上半身を中心とした倒立・支持系の強化により、ひねり倒立系の技にも強さ、鋭さ、安定性が見られる選手が増えてきた。

平均台

- ・瞬発的な脚力の向上により、これまでよりも上昇力があり余裕のある台上のアクロバット系技、ジャンプ系技、終末技を行える選手が増えてきた。
- ・継続的なバレエレッスン等により、芸術性部分の姿勢・表現力に向上が見られた。

ゆか

- ・多くの強化選手において前方・後方蹴り時の瞬発的な脚力の向上、及びひねりの鋭さの向上が見られた。
- ・それに伴い、これまでよりも上昇力があり余裕のあるひねり系技や 2 回宙返り系技、高難度の前方系連続技を行える選手が増えてきた。
- ・継続的なバレエレッスン等により、芸術性部分の姿勢・表現力に向上が見られた。

全体として

これらを基に、本年は以下のような方向で強化を行いたい。

内容

- ・強化の第二段階として、総合的な演技続行力（通し力）の強化と、国際大会で戦うための強靭さを高めることを目指す。
- ・同時に、引き続き基礎トレーニングと合わせ、これまで作り上げてきた素材（基礎技術）、そして引き続き作り上げていく素材を基に、より多くの高難度技の完成・安定を図り、演技の高難度化につなげる。
- ・上記を基に、国内上位のどの選手が世界選手権代表チーム（又は主要大会代表）として戦っても、強靭な戦いができるよう強化を図る。

方法

- ・引き続き、毎月の強化合宿による徹底した競技力の強化。
- ・国際競技会を利用した国際競技力の強化。
- ・強化合宿時における講習会等によるレベルアップ、共通認識の向上。
- ・種目により突出した力を持った選手の積極的な合宿への招待。

跳馬

力強く速い助走、強い踏み切り（蹴り）、瞬発的な突き技術を基とした、上昇力のある跳躍の強化を徹底し、前方系、及び後方系ともに雄大で余裕があり、かつ安定性まで十分に高められた高難度の跳躍技習得を目指す。

段違い平行棒

強靱な倒立力、強いスイング力、ひねり技の正確さ、及び空中局面技の高さを伴った、完成度の高い演技続行力（通し力）の向上を図り、それを基に、より高難度かつ高い完成度の演技に発展させることを目指す。終末技においても国際競技力向上を前提とし、高さで余裕を伴った D 難度技以上をスタンダードとした演技を目指す。

平均台

アクロバット系技、ダンス系技（ジャンプ技、ターン技等）、連続技の正確さを伴った、完成度の高い演技続行力（通し力）の向上を図り、それを基に、より高難度かつ高い完成度の演技に発展させることを目指す。継続的な芸術性トレーニング（バレエレッスン等）により、引き続き芸術性部分の強化を図る。終末技においても国際競技力向上を前提とし、高さで余裕を伴った D 難度技以上をスタンダードとした演技を目指す。

ゆか

効率的でパワフルな蹴りの技術（前方・後方）・回転・鋭いひねり技術、また、ダンス系技（ジャンプ技、ターン技等）の正確さを伴った、完成度の高い演技続行力（通し力）の向上を図り、それを基に、より高難度かつ高い完成度の演技に発展させることを目指す。継続的な芸術性トレーニング（バレエレッスン等）により、引き続き芸術性部分の強化を図る。終末技においても国際競技力向上を前提とし、高さで余裕を伴った D 難度技以上をスタンダードとした演技を目指す。

2. 第44回世界体操競技選手権アントワープ大会報告

審判委員会女子体操競技審判本部

岡崎 美穂

岡野 由美

- ◇ 大会期間：2013年9月30日～10月6日
- ◇ 場 所：ベルギー／アントワープ
- ◇ 日 程：9月27日（金）女子審判会議
9月28日（土）女子審判抽選
女子ポディウムトレーニング（1日目）
9月29日（日）女子ポディウムトレーニング（2日目）
9月30日（月）男子予選（1日目：1～3班）
10月 1日（火）男子予選（2日目：4班）
女子予選（1日目：1・2班）
10月 2日（水）女子予選（2日目：3～5班）
10月 3日（木）男子個人総合選手権
コーチ向け、芸術性ワークショップ
10月 4日（金）女子個人総合選手権
審判向け、芸術性ワークショップ
10月 5日（土）男女種目別決勝 男子：ゆ か、あん馬、つり輪
女子：跳 馬、段違い平行棒
10月 6日（日）男女種目別決勝 男子：跳 馬、平行棒、鉄 棒
女子：平均台、ゆ か
- ◇ 参 加 国：55カ国（134名）
- ◇ 審判会議内容と審判抽選結果
 - 抽選結果
競技Ⅱ 段違い平行棒E1：岡崎美穂
平均台計時：岡野由美
競技Ⅲ 平均台計時：岡野由美
 - 採点制度
スーパーバイザー・D審判員2名、R審判員2名、E審判員5名、
このE審判員のスコアに点数差が生じた場合、E審判員のEスコアとR審判員の平均スコアが最終のEスコアとなる。
例外として2名のR審判員の得点に一定以上の差が生じた場合はこの限りではない。E審判員のEスコアが最終のEスコアとなる。
 - 約4時間の事前の講習があり、各種目の承認方法・E審判員の減点項目の確認を行った。
平均台の芸術性と振り付けの減点について、「横向きでの動きがない（技ではない）」
また、「胴の一部（大腿部、頭を含む）が台に接する平均台に近い動き／技の組み合わせがない（技でなくてもよい）」は、全身を使った「ポーズ」ではなく、全身を動かさなければいけない事を確認した。
- ◇ 種目別決勝上位3選手の主な演技構成
 - 跳 馬
 - ・ 1位 MARONEY Mc Kayla(USA) 15.724

- ① ロンダート後転とび～後方伸身宙返り 2 1/2 ひねり
D6.3 E9.766 ライン減点-0.10 15.966
- ② ロンダート後ろとび 1/2 ひねり～前方伸身宙返り 1 回ひねり
D6.0 E9.483 15.483
- **2位 BILES Simone(USA) 15.595**
- ① ロンダート後転とび～後方伸身宙返り 2 1/2 ひねり
D6.3 E9.633 15.933
- ② ロンダート後ろとび 1/2 ひねり～前方伸身宙返り 1/2 ひねり
D5.6 E9.658 15.258
- **3位 HONG UN Jong(PRK) 15.483**
- ① ロンダート後転とび～後方伸身宙返り 2 1/2 ひねり
D6.3 E9.266 15.566
- ② ロンダート後ろとび 1/2 ひねり～前方伸身宙返り 1 1/2 ひねり
D6.4 E9.000 15.400
- 段違い平行棒
- **1位 HUANG Huidan (CHN) 15.400 D6.6 E8.800**
低棒外向き、後方閉脚浮腰回転倒立 1 回ひねり～シュタルダー背面とび出し上移動高棒懸垂～パク宙返り～シュタルダー背面とび出し 1/2 ひねり上移動高棒懸垂 (E+D+D+E)、後方閉脚浮腰回転倒立 1/2 ひねり～大逆手前方車輪、大逆手の片手上で 1 回ひねり～屈身イエーガー宙返り (D+E+D)、後方かかえ込み 2 回宙返り 1 回ひねり下り (D)
- **2位 ROSS Kyla(USA) 15.266 D6.4 E8.866**
低棒外向き～後方閉脚浮腰回転倒立～背面とび出し～上移動高棒懸垂～パク宙返り (E+D)、低棒外向き～後方屈身足裏支持回転倒立～背面とび出し 1/2 ひねり上移動高棒懸垂 (E)、後方閉脚浮腰回転倒立 1/2 ひねり～開脚イエーガー宙返り (D+D)、後方閉脚浮腰回転倒立 1 回ひねり～高棒懸垂～前振り出し 1/2 ひねり低棒とび越し～低棒倒立 (E+D)、後方閉脚浮腰回転前振り出し～切り返しを伴った上移動高棒懸垂 (C)、後方車輪～後方車輪、後方伸身 2 回宙返り下り (D)
- **3位 MUSTAFINA Aliya(RUS) 15.033 D6.5 E8.533**
低棒外向き、シュタルダー 1 回ひねり～後方屈身足裏支持回転倒立～背面とび出し 1 回ひねり上移動高棒懸垂～パク宙返り～後方開脚浮腰回転倒立～低棒外向き～後方屈身足裏支持回転倒立～背面とび出し 1/2 ひねり上移動高棒懸垂 (D+E+D+C+E)、後方閉脚浮腰回転倒立 1/2 ひねり～屈身イエーガー宙返り (D+D)、後方屈身足裏支持回転倒立 1 回ひねり～後方かかえ込み 2 回宙返り 1 1/2 ひねり下り (D+E)
- 平均台
- **1位 MUSTAFINA Aliya(RUS) 14.900 D6.0 E8.900**
台の横に立ち、脚をかかえ込んで背面支持 (A)、ウルフとび～シソヌ～片足踏み切り側方かかえ込み宙返り (A+A+D)、前へ脚交差した前後開脚とび 1/2 ひねり、オノディ (D+D)、片足踏み切り前方開脚伸身宙返り～開脚後転とび (D+B)、前へ交差した前後開脚とびから輪 (E)、片足踏み切り側方開脚伸身宙返り (D)、ロンダート～後方かかえ込み 2 回宙返り下り (D)、
- **2位 ROSS Kyla(USA) 14.833 D6.0 E8.833**

台の横に立ち、脚をかかえ込んで背面支持(A)、前へ脚交差した前後開脚とびから輪(E)、開脚後転とび～後方開脚伸身宙返り(B+C)、1回ターン(A)、前後開脚とび～シソソヌ(A+A)、前方開脚伸身宙返り～羊とび(D+D)、片足踏み切り、側方かかえ込み宙返り(D)、前へ脚交差した前後開脚とび～後方かかえ込み宙返り(C+C)、片足踏み切り、側方伸身宙返り(D)、前方かかえ込み宙返り～ウルフとび(D+A)、ロンダート～後方かかえ込み2回宙返り下り(D)

● **3位 BILES Simone(USA) 14.333 D6.1 E8.233**

台の横に立ち、脚をかかえ込んで背面支持(A)、片足上で、しゃがみ立ち2 1/2ターン(E)、シソソヌ～屈身とび(A+A)、片足踏み切り前方開脚伸身宙返り～両足踏み切り前後開脚とび(D+A)、開脚後転とび～後方開脚伸身宙返り(B+C)、前へ脚交差した前後開脚とび～前へ脚交差した前後開脚とび1/2ひねり～後方かかえ込み宙返り(C+D+C)、前方かかえ込み宙返り(D)、開脚後転とび～後転とび両足着台～後方かかえ込み2回宙返り1回ひねり下り(B+B+G)

● ゆ か

● **1位 BILES Simone(USA) 15.000 D6.5 E8.500**

シリバス(後方かかえ込み2回宙返り2回ひねり)(H)、前へ脚交差した前後開脚とび～片足踏み切り、前後開脚とび1 1/2ひねり(B+D)、後方伸身2回宙返り1/2ひねり(G)※新技、浮脚を水平に保ったしゃがみ立ち2回ターン(D)、前へ脚交差した前後開脚とび1回ひねり(D)、ジョンソン1/2ひねり(C)、後方伸身宙返り2 1/2ひねり～前方伸身宙返り(D+B)、後方かかえ込み2回宙返り1回ひねり(E)

● **2位 FERRARI Vanessa(ITA) 14.633 D6.2 E8.433**

シリバス(後方かかえ込み2回宙返り2回ひねり)(H)、後方かかえ込み2回宙返り1回ひねり～後方かかえ込み宙返り(E+A)、片足踏み切り前方開脚伸身宙返り(A)、後方かかえ込み2回宙返り(D)、前へ脚交差した前後開脚とびから輪～前へ脚交差した前後開脚とび1回ひねり(C+D)、1回ターン(A)、片足踏み切り、前後開脚とび1回ひねりから輪(D)、片足踏み切り、前後開脚とび1 1/2ひねり(D)、後方屈身2回宙返り(D)

● **3位 IORDACHE Larisa Andreea(ROU) 14.600 D6.1 E8.500**

シリバス(後方かかえ込み2回宙返り2回ひねり)(H)、後方かかえ込み2回宙返り1回ひねり(E)、3回ターン(C)、前へ脚交差した前後開脚とび～前へ脚交差した前後開脚とび1回ひねり(B+D)、後方伸身宙返り3回ひねり(E)、片足踏み切り、前後開脚とび1 1/2ひねり(D) ジョンソン1/2ひねり(C)、後方屈身2回宙返り(D)、片足踏み切り側方かかえ込み宙返り(A)

◇ 大会所感

昨年、ロンドンオリンピックが終わり、今年より新たにルールが改正されて初めての世界選手権であったためか、ポディウムトレーニングでは、帯同審判員とコーチでD審判団に技の承認の確認を行う事ができた。ポディウムトレーニングでは、日本選手の美しい体操が目立った。初出場の村上選手と笹田選手は、他国の審判員から名前を聞かれ、とても注目を集めていた。採点の傾向は、Eスコアの採点基準が厳しく、跳馬以外は上位選手でも8点台中間から後半の採点であった。日本選手の演技は姿勢欠点も少なく、美しく丁寧だが、その反面スピード・迫力に欠け弱々しさを感じた。また、構成面においても組み合わせの工夫や、多様な技の選択などの取り組みが必要だと感じた。平均台では、ダンス系のD+Dでの組み合わせやダンス系+アクロバット系の組み合わせなど、難度の高い組み合わせでDスコアを上げている選手が多かつ

た。また、段違い平行棒の構成は、日本選手は単発で行う空中局面を伴う技や、棒下振り出しでの移動技がほとんどであるが、他国の選手は、例えば、イエーガー宙返りからパク宙返りの組み合わせ、後方屈身足裏支持回転倒立背面とび出し上移動高棒懸垂から前振り出し1/2ひねり低棒とび越し低棒倒立などである。日本選手は低棒から高棒への移動技がCまたはB難度であるが、他国の選手はEまたはD難度で構成している。

予選のゆかでは、村上選手が初出場とは思わせない堂々とした演技を行い、種目別決勝に進んだ。また、笹田選手・寺本選手はミスがあったが、個人総合決勝に進むことができた。美濃部選手はミスが響き、残念ながら決勝進出は果たせなかった。

個人総合決勝では、寺本選手は予選のミスを修正し9位となった。笹田選手も予選のミスは修正できたが、最終種目の段違い平行棒での落下が響き23位となった。

種目別では、村上選手の演技は予選より更に丁寧な実施であった。Dスコア6.2 Eスコア8.266で結果4位であった。惜しくもメダルは逃してしまったが、日本が長年苦手種目と言われてきたゆかで世界にアピールできたことは、今後の日本女子体操にとって大きな前進であると思う。跳馬は日本国内ではDスコアの高い跳躍を実施する選手が増えてきており、強化が進んでいるが、世界で戦うためには、まだまだ突き上がりの高さ、飛躍の大きさ、スピードが不足していると感じた。Dスコアの高い跳躍技への取り組みと雄大な飛躍が今後の課題になるだろう。今回の世界選手権は、今後の（特に来年）の参考となる情報をたくさん収穫できた大会であった。有力選手の欠場もあったが、個人総合で寺本選手が9位、ゆか、村上選手が4位という結果は、日本が世界で戦って行けることを選手自身が感じ、また、世界に向けてアピールできたのではないかと思う。また、大過失が多かった美濃部選手と笹田選手は、この経験を糧に今後の活躍に期待したい。

3. 2014 年度採点指針

2013 年版採点規則および、2014 年度「強化指針」に基づき、審判委員会女子体操競技審判本部による 2014 年度採点指針をここに通達し、この通達をもって適用いたします。

【全体として】

1. 立ち姿勢を含めた美しい体線での実施、雄大な演技実施
2. 準備局面を有し意識的に止めようとした着地
3. 安定した演技実施を基に、高いDスコアを有する演技

【跳馬】

- －高さや距離を伴う雄大な飛躍
- －高い体勢での安定した着地

【段違い平行棒】

- －多様性に富んだ雄大な空中局面を伴う演技
- －姿勢欠点のない安定した実施

【平均台】

- －アクロバット系、ダンス系の技での正確で安定した実施
- －リズムとテンポの変化に富み、一連のつながりがある芸術的な演技

【ゆか】

- －演技全体を通して審判員や観客を魅了する芸術性の高い演技
- －選手の個性にあった音楽の選択と特徴をとらえた独創的な振り付け
- －演技面を大きく使用した躍動感のある演技
- －アクロバット系、ダンス系の技での正確で安定した実施

4. 芸術性について

昨年の世界選手権時において、音楽性の講習と芸術性についてのワークショップが開催されました。その、一部の講習内容をお伝えいたします。

女子体操競技における芸術性について



芸術的なパフォーマンスとは

- 多様な動作の選択と組み合わせ、音楽に合わせた振り付けの構成、そして曲の解釈。体操選手の振る舞いと衣装(コスチューム)・・・加えて演技の「年齢に相応した」演技。 **芸術的な構成**
- 選手が見せる具体的パフォーマンスの質:スタイル、表現力、音楽性など、一般に体操競技以外では芸術的パフォーマンスに帰する質 **芸術的なパフォーマンスまたは「芸術性」**

芸術性のスコアカード

- 振付と伴奏が「年齢的に適切」であり「成長に見合っている」かどうか。
- 芸術的な観点から見て、テーマ(またはストーリー)の確立と演技の流れに合った曲か？また、選手が曲に合わせて体操およびダンス系の運動を効果的かつ表情豊かに行えるような演技の構成になっているか？
- 選手が「踊っている」ように見えるか、つまり曲のテーマ、リズム、テンポ、流れに沿って演技しているか？つなぎのステップが、単に歩いたり、走ったりしている以上のものか？
- 演技を通して、要求要素(タンプリング、ターンやジャンプシリーズなどの要求されているもの)がなめらかにつながっているか？

芸術性のスコアカード

- 選手は演技全体を通して、自分のスタイル(個人独特のスタイル)、感情、音楽性を表現しているか？
- 選手の技、構成、実施は、要求されているもの以上のパフォーマンスか？
- 選手が観客や審判と心を通わせ、つながっているか？

芸術性の構成

- 構成とは、難度要素に入る技、要求されている組み合わせ、その他すべての動きを含む、たくさんの独自の運動が含まれたものとして定義される。
- したがって、選曲、振付、曲の解釈(音楽での演出)も演技の一部に含まれる。
- そして、選手を行う演技を構成するのは、コーチであり振付師(コレオグラファー)である。

振付

- 振付とは、空間と時間の中で、選曲と調和した体操的および芸術的に身体動作を表現する手順と定義される。
- 流れるような動きを作ったり演技全体のつながりを生み出すための技と芸術的要素のバランスであり、演技の中で、選手独自の能力、個性、スタイルを表現するためのもの。

選曲および曲の解釈

- 優れた選曲は、演技の構成、リズム、テンポに加えて、テーマと動作の確立を手助けしてくれる。
- 良い選曲は、技の必要要素の演技を強調して、演技の助けになる。また、振付にひらめきを与え、演技のスタイルや質を引き立たせたり、選手による表現と感情を助ける。
- パフォーマンス全体が選曲と強く結びついていなければならない。

芸術的なパフォーマンスまたは「芸術性」

- 芸術性とは、しっかりと構成された演技を芸術的なパフォーマンスへと変換できる選手の能力。
- したがって、技の全要素(要求された要素)と振付の完璧な演技に加えて、音楽的才能、表現、スタイルも見せられなければならない。
- 芸術性は技巧、繊細さ、抑揚であり、さらに奥の深さ、複雑さ、スピードも必要である。

音楽性

- 音楽性とは、選手が全身を使ったパフォーマンスを通して、曲を解釈し、調子、リズム、テンポだけでなく、テーマ、流れ、形、盛り上がり、情熱を表現する人間の能力である。

表現力

- 選手が観客や審判に自分自身を見せる見せ方。
- 演技を通じて役柄、人柄、スタイルを伝える能力。
- 顔の表情のみならず、選手の身体を使って表現される気持ちや強い感情の変化。
- 演技中一番難しい、または一番複雑な運動や動きをしている時にも、感情を調節したり操作できる能力。
- 表現を通して、複数の動作(アクロバット系要素と振付の両方)運動を一つの芸術的な形に変える能力。

スタイル

- 有名な芸術家やパフォーマーのような特徴的な表現方法
- 技の実施方法あるいは演技の実施方法
- 特定のパフォーマーの動作方法
- 人間の特徴的な身のこなし、振る舞い、態度
- 美しい、或いは際立つ外見

マスタリー(妙技)

- 妙技(又は卓越技能)とは、選手によって表、現された運動、感情、スタイルと音楽性の表現の並外れた相互作用のことである。すべての要求やルールを超越し、観客や審判の心に触れたり、心を動かしたりする選手の能力
- 「マスタリー」を、ただの「良い演技」と区別し、特別な演技だったと評価する(差をつける)ために、全体的な芸術性の得点が考慮されるべきである。

コメントと提案

- フロアへの入り方(カーペットの境目や観客、審判団の視界に入る時も含む)は、きれいにし、プロフェッショナルであるべきだ。中には手のひらを太ももにこする人がいたり、肩をすくめたり、非常に目立つ深呼吸をしたりなどのしぐさをした女子選手が何人もいた。
- 演技のオープニングでは、ほとんどの場合、非常に短い一連の動作(ワンステップだけ、または腕をちょっと動かしながらの数ステップだけ)しかしない人がほとんどですが、それではスタイルやテーマを確立したり、選手自身が十分に自己紹介するのに必要な時間がとれているとは言えない。

所見と提案

- 足、きれいに伸びたつま先、そしてその意識の行き届いたつま先はどうなってしまったか？
- 腕、手、指と頭のポジションにはしっかりと力が入っていないといけない。「張り」がなければならぬ。これらの細かい所に注意することは、スタイル、良い構成と実施を作るのに役立つ。
- 身体の「表現力は豊か」であるが、多くの選手が自信や強い感情を顔の表情に見せないことが多い。顔の表情はその音楽において役を演じる上で大きな役割を果たす。
- 体操選手は、難度を実施する時間、ダンスをする時間、演技をする時間、審判員及び観客とつながりあう時間をそれぞれ同様に必要となる。

女子体操選手には、見る者をドキドキさせるだけでなく感動を与えることのできる信じられないほどの可能性があります。また、審判にはそれぞれの演技を正確かつ公平に評価する責任があります。各審判(およびコーチ)は「観客」の目、つまりスポーツ界において最高の才能を持つ女性に対する評価と尊敬の目をもってパフォーマンスを見ることが重要です。

5. 体操競技女子 2013 年版採点規則訂正について

2013 年版採点規則を下記の通り訂正いたします。

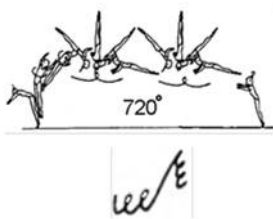
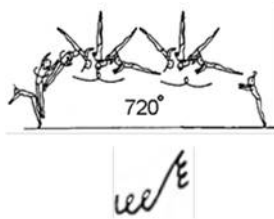
また、2014 年 1 月 31 日付で国際体操連盟より 2013F I G採点規則の訂正が出されました。

一部追加、削除、変更がありましたので日本語版採点規則の修正（2014 年 1 月）改訂版としてここに通知し、この通知をもって適用といたします。

【2013FIG 採点規則の訂正】

頁	章 節	変 更 前	変 更 後
P19	第 7 章 D スコアに関する規則 7.4 組み合わせ点 (CV) 右側ページ 13 行目	<p>a) 組み合わせ点に使う技は難度点で数えられた 8 つの技に含まれていなくてもよい。全ての技は難度表にあるものでなければならない。</p> <p>b) 段違い平行棒、平均台、ゆかでの組み合わせ点の評価は： <ul style="list-style-type: none"> ・ +0.10 ・ +0.20 ・ +0.30 (可能性がある) </p> <p>c) 組み合わせ点の公式は第 11, 12, 13 章の各種目の規則に記載されている。</p> <p>d) 価値が下がった技も組み合わせ点として使用できる。</p> <p>e) 承認されるためには組み合わせが落下なしに実施されなければならない。</p>	<p>【赤字部分追加】</p> <p>a) 組み合わせ点に使う技は難度点で数えられた 8 の技に含まれていなくてもよい。全ての技は難度表にあるものでなければならない。</p> <p>b) 段違い平行棒、平均台、ゆかでの組み合わせ点の評価は： <ul style="list-style-type: none"> ・ +0.10 ・ +0.20 ・ +0.30 (可能性がある) </p> <p>c) 組み合わせ点の公式は第 11, 12, 13 章の各種目の規則に記載されている。</p> <p>d) 価値が下がった技も組み合わせ点として使用できる。</p> <p>e) 承認されるためには組み合わせが落下なしに実施されなければならない。</p> <p>f) 3 つ以上の技が直接組み合わせされている場合、2 つ目の技は以下のように使用できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 回目は組み合わせの最後の技として ・ 2 回目は次に続く、新しい組み合わせの最初の技として </p>
P40	第 12 章 平均台 12.7 注釈 開始技 右ページ 11 行目～	<p>b) 開始技（接点系、倒立、姿勢保持）は演技中でも実施できるが同一技として難度は 1 回のみ数える。</p>	<p>【赤字部分変更】</p> <p>b) 開始技（接転系、倒立、姿勢保持）として記載されているいくつかの技は演技の中（またはその逆）で実施できるが、難度は 1 回のみ数える。</p>

【日本語版採点規則の修正（2014年1月）の訂正】

ページ	項目	誤	正
P 40	第12章平均台 12.6種目特有 な実施減点 左側ページ 6行目	停止（2秒）または技の前の過度な準備動作	【赤字部分変更】 停止（ 1秒を超える ）または技の前の過度な準備動作
P45	第13章ゆか 13.4組み合わせ点（CV） 左側ページ 12行目	直接のアクロバット系の技の組み合わせすべての組み合わせはリバウンドでなければならない	【赤字部分削除】 直接のアクロバット系の組み合わせ すべての組み合わせはリバウンドでなければならない
P 46	第13章ゆか 13.6種目特有な実施減点 左側ページ 14行目	技の前の停止（2秒）	【赤字部分変更】 技の前の停止（ 1秒を超える ）
FX- Group 5-2	ゆか 難度表 差し替え部分	5.604 - I - 後方伸身2回宙返り2回ひねり 	【技番号変更】 5.903 - I - 後方伸身2回宙返り2回ひねり 

6. 平成 25 年度女子体操競技全国代表審判員研修会の Q & A について

平成 25 年度女子体操競技全国代表審判員研修会での質問について、現時点でお答えできる回答をさせていただきます。

<総則>

Q：ゆかにおいて「もし 1 班 3 名以下の選手になった場合でも 1 分 30 秒は確保される」とありますが、3 名に満たない（3 名未満＝2 名以下）の場合でも 1 分 30 秒確保してしまっていていいですか？

A：良いです。

<跳馬>

Q：助走路上の助走は練習回数に数えるとありますが助走路の横を（他の選手の邪魔にならないように）走るのは許されるか？（時々足をあわせるために助走路横を走る選手がいる）

A：助走回数は競技直前の演技台での練習に対して練習回数を数える。助走路脇を走ることは採点規則上の減点ではないが、演技者や競技運営上の妨げとなる可能性もあるので、良識ある行動をお願いしたい。

Q：補足説明 跳馬について（イ）（もし選手が、助走を全く試みなかった場合、“得点なし”とみなし、順位も出ない）とありますが他の種目はどのように対応するのですか？

A：跳馬についてですので、跳馬のみです。他の種目は現状と変わらない対応です。

<段違い平行棒>

Q：構成減点「低棒から高棒へとんで移る」どういう場合減点か説明してほしい

A：足裏支持回転後に低棒から高棒へジャンプで移動した場合など。技ではない移動。

Q：内容のない振り/中間振動について「膝の曲がり」などがあってもその減点は適用しないとありますが説明通り姿勢欠点はせずに「中間振動や内容のない振り」の-0.5のみという理解でよいでしょうか？

A：良いです。

例えば、中間振動になった際に、膝を曲げてしまった場合でも、「中間振動-0.50」のみの減点となります。

<平均台>

Q：4.203 が上がりから削除されたが、開始で行った場合の難度は A+B となるのか？

A：B 難度です。

Q：1.105 「平均台に胴体が触れなければならない」→触れなかった場合はどうなるのか？

A：難度なしとなります。

Q：台に近い動きの説明 1.208（シリバス）を実施していれば OK か？1.108 はどうなりますか？

胸倒立から膝立や大腿部を台につけた座などになった動きを行った場合はどうでしょうか？

A：技だけではなく、技や動きを組み合わせなければなりません。

Q：ロンダート伸身宙返りが E→D になった場合 伸身姿勢を保てないの減点はないのか？

A：実施減点をします。実施の現象にもよりますが、この項目も含めての実施減点はあります。

<ゆか>

Q：ゆかの演技開始部分からはどのくらい動けば減点なしになりますか？

A：演技の開始時、立ったままポーズをして直ちにタンブリングに入った場合、この「演技が始まって直ちにタンブリングに入る」の減点項目を適用いたします。

減点とは、理想からの逸脱です。採点規則集、第13章ゆかの「芸術的な演技」「構成と振り付け」「表現」「音楽」「音楽性」に書かれているように「技と動きの構成における独創性とは、新たな発想、形式、演出、オリジナリティーを意味し、それによって模倣や単調な振り付けは避けられる。」ということが明記されています。また13.5 芸術性と振り付けの減点に「演技を通して役やキャラクターを演じることができない」という項目がありますので、演技の中で「何を表現し、何を伝えたいのか」という観点でゆかの演技構成を考えていくことが大切であり、それによって審判員はゆかの演技を一つの作品として「この選手が何を表現し、何を伝えたいのか。」ということが伝わってきたかどうかを評価し、採点に表します。「どのくらい動けば・・・？」という観点からではなく、採点規則集P42に1ページにわたり記載している芸術性の説明をよく理解し、今後の審判業務を務めていただきたいと思います。

7. おわりに

審判委員会
女子体操競技審判本部
本部長 岡崎美穂

2013年度は採点規則が改訂され、また日本体操協会も新たな体制でスタートした年でもありました。関係各位のご協力により今年度の事業を無事に終了することが出来ますことを心より感謝を申し上げます。

2013世界選手権ベルギー大会では、個人総合・種目別大会で惜しくもメダル、入賞には手が届きませんでした。これまで多くの優れた所属コーチ、選手、審判員、関係役員の方々が築き上げてきた「美しい体操・質の高い体操」を大切に、一丸となって強化できた成果が現れた大会だったと思います。また、世界選手権では初めてゆかの芸術性についての講習会がありました。皆さんも色々な分野で一度は芸術に触れ、感じたことがあると思いますが、芸術は、観客を引き寄せるだけではなく、人々の心に触れ、心を動かすことのできる素晴らしい可能性を持っています。その芸術を、自分の演技でどのように表現し、どのように観客や審判に伝えるか、ということが求められており、日本は早急に強化に取り組み、来年度につなげなければいけない事だと思います。

「体操競技」は、英語で「Artistic Gymnastics」と言います。直訳すると「芸術的な体操」です。他のスポーツと同じようにエンターテインメント性を持って争う競技という事ですので、この Artistic Gymnastics（芸術的な体操）の原点を一度見直し、選手の個性を引き出す演技をすることが大切だと感じます。芸術性の強化と共に「美しい体操・質の高い体操」を忘れず、Dスコアアップにつなげていきたいと思っています。

また昨年の競技会では、採点間やローテーション前待機時にマット上で練習をしている選手を多く見かけました。採点規則集の第2章「選手の規則」第3章「コーチの規則」を今一度理解していただき、来年度よりマナーアップを図っていただきたいと思っています。

審判員におきましては、採点規則に対する理解をより一層深め、選手の為のパフォーマンスに対する公平な評価に対して、引き続き取り組んでいただきたいと思っています。

今年、2月に FIG より「2013年版採点規則 ヘルプデスク」が通達されました。そこで、日本では「2013年版採点規則 ヘルプデスク日本語版」の発行をすることとなりました。このヘルプデスクは、2013年版採点規則の補足説明となっています。この、「2013年版採点規則 ヘルプデスク日本語版」を活用していただき、今後の審判活動に役立てていただきたいと思っています。

2013年9月にブエノスアイレスで開催されました IOC 総会におきまして、2020年五輪開催都市が東京に決定いたしました。日本にとって大きな励みになるとともに、体操競技関係者にとっても、東京五輪に向けて大きな目標が掲げられたことと思います。その6年後の目標に向けての一步として今年の世界選手権では、リオデジャネイロ五輪の予選が始まる重要な年となります。更なる強化が求められてきますので、引き続きコーチ、選手、審判員、関係役員の方々が一致団結し、一丸となって日本女子体操界を世界のトップへ牽引し、次の東京五輪につながる素晴らしいスタートとなりますよう皆様のご協力・ご健闘を祈念して、情報20号を通達いたします。